

東 三 河 森 林 計 画 区

第三次国有林野施業実施計画書

計画期間 自 平成 2 0 年 4 月 1 日
至 平成 2 5 年 3 月 3 1 日

中部森林管理局

目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2	施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
	(1) 伐採造林計画簿	1
	(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等	1
	(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積	3
	(4) 生産群別の面積等	3
	(5) 標準伐採量	3
	(6) 伐採総量	4
	(7) 更新総量	5
	(8) 保育総量	5
3	林道の整備に関する事項	6
4	治山に関する事項	7
5	保護林の名称及び区域	8
6	レクリエーションの森の名称及び区域	8
7	その他必要な事項	
	(1) 施業指標林、試験地など	10
	(2) フィールドの提供	13

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域

国有林野施業実施計画図による。

2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等

施業群		面積 (ha)	施業の方法		伐期齢 又は 回帰年 (年)
			施業方法	目標とする森林	
小面積分散型	小面積分散伐区枝打	1,501.57	育成単層林施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時モザイク的配置となることで、林齢、林相が異なる多様な森林を成立させ、枝打ちにより材の付加価値を高めた森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	50
	小面積分散伐区	419.31	育成単層林施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時モザイク的配置となることで、林齢、林相が異なる多様な森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ 60 ヒノキ 65
長伐期		484.42	育成単層林施業	主伐は、伐期齢のおおむね2倍以上の林齢において行い、成長の旺盛な時期から主伐までの間に成長に応じた間伐を繰り返す、下層植生の発達した森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ 120 ヒノキ 130

施 業 群	面 積 (ha)	施 業 の 方 法		伐期齡 又は 回帰年 (年)	
		施業方法	目 標 と す る 森 林		
人工林複層伐	403.89	育成複層 林施業	人工林において、複層伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	スギ 80 ヒノキ 85 [65]	
人工林長伐期複層伐	1,044.32	育成複層 林施業	木曾ヒノキの代替材を生産する人工林で、複層伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	180 [150]	
漸伐 複層型	人工林漸伐	370.63	育成複層 林施業	人工林及び天然林において、漸伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹種及び樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	80
	天然林漸伐	7.45	育成複層 林施業		N 200 L 180
択伐 複層型	人工林択伐 複層型	276.04	育成複層 林施業	人工林及び天然林において、択伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹種及び樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	85 (35)
	天然林択伐 複層型	175.26	天然生林 施業		(N 25) (L 35)
そ の 他	88.50		試験地等においては、その目的に応じた施業を行う。		
合 計	4,771.39				

- (注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。
2 ()は回帰年、[]は複層林の初回伐採の伐期齡である。

(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：h a)

施業群	上限伐採面積
小面積分散型	147.76
長伐期	18.62
人工林複層伐	62.14
人工林長伐期複層伐	58.01
漸伐複層型	9.46
択伐複層型	64.47

(注) 上限伐採面積は、計画期間(5年)分の面積である。

(4) 生産群別の面積等

生産群	面積 (ha)	生産目標等			伐期齢 (年)
		樹種	生産目標	期待径級	
優良柱材	300.66	ヒノキ	芯持柱材を主とした生産	22cm	50
一般用材	279.21	スギ	一般建築材を主とした生産	22cm	60
		ヒノキ	芯持柱材や一般建築材を主とした生産	22cm	65
合計	579.87				

(注) 1 林地以外の土地及びその他産業活動の面積は含まない。
2 期待径級は、胸高直径である。

(5) 標準伐採量

当計画区の資源の循環利用林面積は僅少であるため、標準伐採量は定めない。

(6) 伐採総量

(単位：m³)

区 分		林 地					林地 以外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計		
水 土 保 全 林	国土保全タイプ			(57.39) 4,969	(57.39) 4,969	3,178	61,133	61,133
	水源 かん 養 タイプ	小面積分散伐区	748	5,795	6,543			
		小面積分散伐区枝打	950	10,571	11,521			
		長 伐 期		7,525	7,525			
		人工林長伐期複層伐		13,958	13,958			
		人工林複層伐	2,240	705	2,945			
		人工林漸伐		445	445			
		人工林択伐複層型		575	575			
		そ の 他		81	81			
		小 計	3,938	(529.70) 39,655	(529.70) 43,593			
計		3,938	(587.09) 44,624	(587.09) 48,562				
森 林 と 人 共 と 生 の 林	自然維持タイプ							
	森林空間利用タイプ			(99.31) 9,393	(99.31) 9,393			
	計			(99.31) 9,393	(99.31) 9,393			
資 源 の 利 用 環 境 林	優 良 柱 材	22,177	8,867	31,044		32,367	32,367	
	一 般 用 材	1,323		1,323				
	計	23,500	(81.02) 8,867	(81.02) 32,367				
合 計		27,438	(767.42) 62,884	(767.42) 90,322	3,178	93,500	93,500	
年 平 均		5,488	12,577	18,064	636	18,700	18,700	

(注) () は間伐面積である。

(7) 更新総量

(単位：h a)

区 分		水土保全林			森林と人との共生林			資源の 循環 利用林	合 計
		国土保全 タイプ°	水源かん養 タイプ°	計	自然維持 タイプ°	森林空間利 用タイプ°	計		
人工 造林	単層林造成		4.48	4.48				36.35	40.83
	複層林造成		9.57	9.57					9.57
	計		14.05	14.05				36.35	50.40
天然 更新	天然下種第1類								
	天然下種第2類								
	計								
合 計			14.05	14.05				36.35	50.40

(8) 保育総量

(単位：h a)

区 分		水土保全林			森林と人との共生林			資源の 循環 利用林	合 計
		国土保全 タイプ°	水源かん養 タイプ°	計	自然維持 タイプ°	森林空間利 用タイプ°	計		
下 刈			198.90	198.90				34.82	233.72
つる切		0.33	27.12	27.45		0.11	0.11		27.56
除 伐		0.10	342.83	342.93		179.45	179.45		522.38
枝 打			183.05	183.05					183.05

3 林道の整備に関する事項

(単位：m)

基幹・その他別	開設・改良別	路線名	林班	延長	備考
基幹	改良	駒ヶ原宇連	9, 176, 177	3箇所	60
		栃洞金沢	97, 98, 100	3箇所	60
		榎尾分水	129, 136, 137	3箇所	60
	計		9箇所	180	
その他	開設	胡麻沢	169		800
		岩崎	1245~1249		2,000
	計			2,800	
	改良	澄川	162, 170	2箇所	40
		鰻沢	69, 70	2箇所	40
		駒ヶ原裏谷	27	1箇所	20
		駒ヶ原第一	13, 22	3箇所	60
		裏谷第一	32, 34	2箇所	40
		宇連	138, 151	2箇所	40
		滝洞	82	1箇所	20
		バラゴ沢	123, 124	3箇所	60
		高松	116	1箇所	20
		鷹巣山	160	1箇所	20
		一ノ又	213	1箇所	20
		桧原	184	1箇所	20
		川合	224	1箇所	20
		棚山	211	1箇所	20
		甚古山	231	1箇所	20
		大沢支線	1281	1箇所	20
		三輪第二	1225, 1228	2箇所	40
多米		1242	1箇所	20	
計		27箇所	540		
合計	開設			2,800	
	改良			720	

4 治山に関する事項

(単位：保全施設＝「箇所」、保安林整備＝「ha」)

位 置 (林班名)	区 分	工 種	計 画 量
7, 16, 24, 32, 52～54, 69, 70, 113, 124	保全施設	溪 間 工	14
125, 138, 140, 148, 149, 159, 162, 164		山 腹 工	10
168, 169, 175, 180, 181, 185, 186, 214, 215			
221, 222, 232, 1221, 1222, 1224, 1225			
1240			
7, 10～14, 16, 21, 24, 26, 27, 29, 36, 40	保安林の整備	保 育 外	399.96
44, 54, 68, 74, 80, 82～86, 90, 96, 98, 99			
103, 104, 106, 111, 114, 117, 119, 123			
129, 131, 137, 139, 141, 145, 146, 150			
153, 155, 157, 159～162, 165, 169, 174			
177, 178, 180, 181, 190, 206, 210, 211			
215, 217～220, 223, 227, 235, 1218, 1226			
1233, 1234, 1237, 1243, 1244, 1246, 1247			
1261～1265, 1281, 1282			

(注) 保全施設の計画量「箇所」数は、「単位流域」数を表す。

5 保護林の名称及び区域

(単位：ha)

種別		植物群落保護林			
名称	新改 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
段戸	既設	14.32	433	モミ・ツガをはじめ ブナなどの混生した林 分である。	原則として、人手を加 えず自然の推移に委ねた 保護管理を行う。
面積計		14.32			

6 レクリエーションの森の名称及び区域

(単位：ha)

種別		自然観察教育林				
名称	新改 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業等	
段戸	既設	274.84	36い、ろ、に、と、ち、ぬ~か、37 38い、ほ~と、40ろ、44は、に 53、54い、は、か、よ、55、91 92い、る~れ、134 153い~は、と、ち、154い、に 155、156 ----- 36は、ほ、へ、り、38ろ、39 40い、41、42、43、44い ----- 36い~ハ、38い、40い、ロ、44い	愛知高原国定公園 及び段戸高原県立自 然公園内にあり、ス ギ・ヒノキの人工林 とモミ、ツガを主体 とする天然林からな る。 東海自然歩道が通 過し、自然観察の場 として適している。	スギ、ヒノキ の人工林とモミ ・ツガを主体と する天然林によ り構成している 人工林につい ては、混入して いる広葉樹の保 全を図り、針広 混交林に誘導す る。 天然林につい ては、自然推移 に委ね現状林分 の維持を基本と する。	育成複層 林施業 ----- 天然生林 施業 ----- 該当外
豊橋	既設	993.85	1216、1217ろ、は 1218い~へ、1219、1220 1221い~れ、1222い~と 1224に~と、1225い~り 1226い、ろ、に~わ 1227い、は~と 1228い~ほ、り~る 1229い~に、と、り~か 1230い~と、1233い、ろ、に 1234に、ほ、1235ろ~に 1236い、1237い~に、へ 1238い~へ、1239い~ち 1240い、ろ、に、へ~ち 1241い~に、へ、と、り~る 1242い~へ 1243い~へ、ち、ぬ~わ	石巻山多米県立自 然公園内にあり、ス ギ、ヒノキを主とす る人工林からなる。 付近には国の天然 記念物「石巻山石灰 岩地植物群落」を有 し、豊橋市内にある 都市近郊林として、 自然観察に 適している。	スギ、ヒノキ を主とする人工 林により構成さ れており混入し ている広葉樹の 保全を図り、針 広混交林に誘導 する。	育成複層 林施業

7 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定 年度	面積 (ha)	位置 (林小班)	選考
施業 指標林	間伐推進 施業指標林	S 6 1	3.77	14㉝	市場価値の高い材木を収穫する間伐及び残存林木の成長の推移を観察し、今後の間伐技術の向上の指標になる林分である。
	天然稚樹育成 施業指標林	S 5 2	9.96	28㉝	150年伐期の、人工仕立て木曾ヒノキ林の林床に発生するヒノキ稚樹の育成による、更新の施業の指標になる林分である。
試験地	田峰段戸スギ 人工林 収穫試験地	S 4 4	1.37	75㉝	成長量、収穫量、その他の資料を収集し林分構造の推移を解明する。
	田峰段戸 ヒノキ 人工林 収穫試験地	S 3 8	0.62	171㉝	同上
	高齢級人工林 ヒノキ成長 試験地	S 4 3	11.18	75㉝	高齢級ヒノキ人工林の成長における間伐の影響を調査する。
	高齢級ヒノキ 成長試験地 (低地位)	S 4 3	1.97	178㉝	低地位の箇所における人工林ヒノキの成長量を調査し、施業の参考とする。
	段戸国有林 人工林ヒノキ 天然下種更新 実験林	H 7	11.00	79㉝	ヒノキの天然更新について更新状況の追跡調査を行い、事業実行上の指針を得る。

種 類	名 称	設定 年度	面積 (ha)	位 置 (林小班)	選 考
試験地	裏谷ヒノキ人工林施業比較試験地	S 4 6	3.43	48い	相対幹距を間伐の尺度とするための総合的研究に資する。
	鰻沢1号ヒノキ人工林施業比較試験地	S 4 7	1.52	70は	同 上
	鰻沢2号ヒノキ人工林施業比較試験地	S 4 7	2.00	75い	同 上
	鰻沢3号ヒノキ人工林施業比較試験地	S 4 7	1.25	81と、ち	同 上
	鰻沢4号ヒノキ人工林施業比較試験地	S 4 9	1.55	68り	同 上
次代 検定林	関名14号 関名15号	S 5 2	0.65	121ろ	精英樹クローンの交配種子を用いて養成した苗木を植栽し、精英樹の遺伝的素質を検定するための林分である。
	関名17号	S 5 3	1.92	20い	同 上
	関名18号	S 5 4	0.57	20ろ	精英樹選抜による育種効果を十分に発揮させるため、現在の育種区を見直して行くことを検定するための林分である。
	関名27号	H 2	0.44	53よ	精英樹クローンの交配種子を用いて養成した苗木を植栽し、精英樹の遺伝的素質を検定するための林分である。
	関名28号	H 3	0.58	54と	精英樹選抜による育種効果を十分に発揮させるため、現在の育種区を見直して行くことを検定するための林分である。

種 類	名 称	設定 年度	面積 (ha)	位 置 (林小班)	選 考
次 代 検定林	関名29号	H13	1.09	117ほ	精英樹のうち、特に成長、材質及び諸害への抵抗性等に優れた精英樹同士の人工交配による実生苗の検定のための林分である。
	関名ハ	S43	1.50	1219に	導入した外国産樹種、国内樹種、在来種などの適応性並びに有望な育成系統の検定のための林分である。
	関名口	S40	2.38	1226と	同 上
精英樹 保護林	スギ新城4号	S37	0.47	234ろ	現存林木の中から成長、形質の特に優れた個体を精英樹として選出し、それらを保護、保存するための林分である。
	スギ新城6号	S41	0.30	65ぬ	同 上
	スギ新城7号	S41	0.18 0.38	65れ 66へ	同 上
	ヒノキ 新城1号	S30	0.36	69に	同 上
	ヒノキ 新城2号	S30	0.59	153い	同 上
	ヒノキ 岡崎1号	S31	0.25	1220は	同 上
森林施 業モデ ル林	水源かん養タイプモデル林	H12	2.00	65か、よ	公益的機能重視の森林施業の取り組みを国民に分かりやすくアピールするために設定するモデル林である。

(2) フィールドの提供

(単位：h a)

名 称	面 積	位 置 (林小班)	選定の目的等
名古屋シティ・フォレスター 倶楽部の森	2.63	35は	ボランティア団体等が行う自主的な 森林整備を推進するためのフィールド として提供する。 協定相手方：名古屋シティ・フォレ スター倶楽部 協定締結：平成19年度
中日森友隊の森	0.96	35ほ	ボランティア団体等が行う自主的な 森林整備を推進するためのフィールド として提供する。 協定相手方：中日森友隊 協定締結：平成19年度
穂の国・みんなの森	2.39	121ち	ボランティア団体等が行う自主的な 森林整備を推進するためのフィールド として提供する。 協定相手方：穂の国森林づくりの会 協定締結：平成19年度